

景況実感調査(2020年7月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 建築分野関係では物流基地の需要があちこちで計画されているが、それ以外はさっぱり状態。市況的にはそろそろ底のような気もするが、すぐ上げにならず、しばらく底が続く模様。需要が見えない。
- ② 21日稼働と、前月比1日減。4~6月が底との淡い期待も7月実績を見ると吹き飛んだ。産業別に見ても建築関連、工作機械、産機、自動車と、コロナ終息が見通せない限り2020年3月期実績を回復する予想すら出来ない。現状では自力で回復する手法はほとんど無く、固定費の圧縮、限界利益管理の徹底 etc. 体力勝負となってきそう。気力勝負でもある。
- ③ 7月は需要家の生産活動の持ち直しで前月比微増となった。期待しているような回復スピードではないものの、少しずつ前向きな動きが出てきているように感じる。コロナウイルス第二波で深刻な状況にならないことを願う。
- ④ 7月より8月は稼働日数の減少もあり、数量はかなり落ちる可能性あり。
- ⑤ 表面処理鋼板の荷動きは6月が大底で、7月に回復してきた。秋以降の大型建築物の話も現実味があり、秋以降、活発な荷動きになると思われる。在庫を安値で販売する先があるが、先を考えると?である。
- ⑥ トヨタ向けが若干取り戻しに入っているが、その他の分野では回復の目途が立たず。また、トヨタの集購価格が下期に下がる可能性大のため、市況の下落が避けられない。8月も稼働日が少ないため、厳しい結果になりそう。

中板

- ① 4月から落ち込んだ需要は5月以降もさらに下げ、7月も依然として底這い状態である。トヨタを中心に回復計画はあるものの、V字回復は期待できず、U字回復も停滞期の長い回復過程を覚悟しなければならない。こういう時期は無軌道な営業は控え、来るべき将来起きる各段階での再編も含む大きな変革に備えるいろいろな方策を、じっくり考えることが必要ではないだろうか。

厚板

- ① 売上数量は対前月比では10%超伸びたが、売上高は5%弱の増加に留まった。前年同月比では6月に続いて何れも10%超の減少になっている。主要ユーザーは稼働がやや上向いてきた先と、ここから落としてくる先が入り混じっており、本格的な回復には程遠い。上向いてきた先についても回復のテンポは極めて緩やかであり、かつ天井は高くないとの印象である。土木案件は足許では物件が途切れていないものの、秋口から端境期に入るものと思われる。素材販売も最低限の引合いは続いており、低位にて横這い推移している。総じて先が見えない状況からは脱却しつつあるものの、見えてきた先行きは極めて厳しいとの印象である。

一般形鋼

- ① 6月は営業日が多いにもかかわらず勢いがなかったため、7月に期待するも結果は横這いであった。6月からコロナ禍による鋼材消費の減退が表面化してきたと思われるが、それに呼応するかの如く同業他社の販売攻勢が始まり、守勢に立たされた月であった。新規開拓は先ず価格を安くしないと興味を持たれないので、その動きに翻弄された。

工工形鋼

- ① 7月の倉出しは減少し、前年同月比も減少。継続物件はあったが、新規物件が減り下値は切り上がったが、上値が上がらず厳しい状況。
- ② 7月の荷動きは決して良くはないが、全く売れなくて困るということは無く、決して悲観的になることはないが、8月は極端に稼働日が少なく量は落ちて当たり前と認識。量と価格の二兎を追うのではなく、メーカー値上げの転嫁に全力を注ぐのが、今すべきことと思われる。

異形棒鋼

- ① 荷動きは6月、7月と戻ってきた。建値は変わらず。コロナ感染増から8月は9日間連休にした。稼働は16日と、20%ダウンになる。在庫は限界値まで絞った。感染させない、しないで動かし、少しの秋需でも享受したい。
- ② コロナ禍で荷動きは依然として低調。とくに在庫販売が回復しない。中小物件も変わらず不振で日々の商売に活況がない。

平鋼

- ① 7月も変わらず荷動きは低調。また、盆休み期間中は製造業も休みのため、荷動きが殆ど無く、稼働日以上に落ち込んでいる。在宅勤務の客先も増え、商談も難しく出荷の増加は見込めない。当面はこのままではないか。
- ② メーカー値上げが重くのしかかり収益悪化。先行き不透明で、良い話も聞かない。8月は稼働日も少ないためさらに悪化するだろう。

車量形鋼

- ① 生産、売上ともに低位にて継続。先行き見込みも良い情報なし。
- ② 店売りは7月後半より一段と低調になってしまい、苦しい状況が続いている。

鋼管

- ① 前月が悪すぎたので増加となったが、回復感はない。今後も大きな変化は期待できず、この低水準が続くと思われる。
- ② 5月、6月は出荷が激減していたが、7月は3月、4月並みの水準に回復し安堵している。

構造用鋼

- ① 需要環境は、一部自動車関連で荷動きが回復しつつあるが、建産機、工作機械など他の分野は荷動きが冴えない状況。在庫量は発注抑制で調整しているが、まだ多め感はある。価格は一部で安値も聞こえるが、概ね横這いで推移。

磨棒鋼

- ① 小口の出荷量の減少から、地方向けの便が組めない状況となり、週末を臨時休業することとした。現在は無理に営業するよりも休業した方が赤字幅の減少への効果が大きい。自動車関連は7月より客先の稼働が7割程度まで回復。秋口以降も継続する目途がつけば需要も9月以降の回復が見込めるが、先行きの不透明感は当面続くと思われる。

その他

<鉄スクラップ>

- ① 荷動きは相変わらず悪く、スクラップ相場も不安定な 1 か月だった。海外市況と国内スクラップの需給のバランスが取りづらく、このまましばらくこの不安定な状況が続きそうだ。

<金属表面処理加工>

- ① 7月の紐付きは予定通りとなったが、物件物の一部が納期調整により次月へスライド。予定していた扱い量が 10%減となった。スポットについては前月比 5%増。暑さも増し、工場内環境も大変厳しく、作業効率を犠牲にしても熱中症に注意して安全第一での作業を指示。